

昭和二十年八月十二日月曜

陸軍

一 朝三時過ぎ次官秘書官廣瀬中佐自動車にて遊井別館ニ来リ九日ノ我カ申入シニ對スル敵側回答ノ枚送アリシ由告ケタルニ依リ竹下、岩加藤ソノ車ニテ登廳シ五課ニ寄り傍受情報ヲ見、軍事課長室ニ至ルニ軍事課長荒尾大佐ノ下ニ六課員皆在リ極度ノ緊張ヲ呈シアリ蓋シ昨夜井田、畑中大臣邸ニ至ルヤ巡查六人護衛ニ来在リ「バドリオ側カ又對ニ大臣ヲ保護監禁セントスルニ非スヤト」判斷ニテ憲兵二十名ヲ畑中引率ノ下ニ差遣シ且高臺上警戒ノ處置ヲ講シツツアリ

三九日ノ後平ニ鑑ニ譯文不良分ニ拘ラス局長ハ直午ニ外務次官ノ許ニ、軍事課長ハ書記官長ノ下ニ次官ハ侍從武官長ノ許ニ至リ各々本回答ニテハ受諾之難キ陸

0937 2-10

軍ノ意思ヲ通シ情勢馴致ニ努ムル所アリ

四昨日ニ豫定セシ大臣ノ上奏ハ手續ノ爲本日トナリ人事  
上奏ノ後九日ノ件ニ付軍ノ實情等ニ付委細ト奏セ  
リ此ノ時陛下ハ「阿南心配スルナ朕ニハ確證カアル旨  
却テ御慰籍的ノ御言葉アリシ由（通常ハ陸軍大  
臣ト御叫ヒ遊ハサレ阿南ノ姓ヲ叫ハルルハ侍從武官時  
代ノ御親シキ心持ノ表現ナル由）

五竹下中佐ハ昨日來計畫セル治安維持ノ爲東部軍管區  
及近衛師團ヲ用ヒテ宮城各宮家皇臣閣僚放送  
局陸海軍省兩統帥部等ノ要處ニ兵力ヲ配置シ陛下  
及皇族ヲ守護シ奏ルト共ニ各要人ヲ保護スル偽装ヲク  
リテ計畫ニ付治安官ニ意見ヲ具申ス（人事局長等同席  
ス）  
ソノ席上佐藤戰備課長入室ニテ「計畫ノ不可ナル理

由ヲ具申ス

次官ハ必スシモ同意ノ意ヲ表セス寧ロ民間トシテトシテ可  
トスル意見ヲ附シ折シモ閣議ニ出テントスル大臣ニ該案ヲ「メ  
「トシテ渡スヘキ由ヲ命シ竹下ハ之ヲ行ハサル可ラサル一般  
情勢ト該案ノ骨子ヲ記ス

六「大臣ハ林秘書官ニ次官ヨリ手交シ大臣ヨハ次官ヨリ極メ  
テ簡單ナル説明ヲ行ヒタル模様ナリ然ルニ竹下次官室ヲ  
出ツルヤ省部ニ課軍事課軍務課ノ小社將校十數名室  
外ニモシ直接大臣ニ意見具申スルノ要ヲ説キシ為全員  
入室大臣ニ對シ竹下ヨリ要旨説明ヲ行ヒタリ稻葉補足  
次官局長ニ三荒尾山田大佐竹下權崎畑中稻葉  
井田原等同室此ノ時畑中少佐ハ軍内既ニ「バドリオ」  
通謀者アリト發言竹下ハカカルモノハ即刻人事的處  
理ヲ加ヘラシ度旨述フ（目標佐藤裕雄大佐）大臣ハ相

其人等の處理ヲ加ヘテ度旨述テ 互不信ヲ戒メラル  
 竹下ハ更ニ東部軍及近衛師團參謀長ヲ召致シ萬一  
 ノ場合ニ準ニ準備ヲ命セラレ度旨具申大臣ハ許可シ  
 次官ニ處理ヲ命セラレ  
 更ニ廣瀬中佐ノ發言ニ依リ者内將校ハ大臣ヲ中心ト  
 シ一糸紊レス行動スヘキ旨竹下ヨリ發言スル所アリ  
 七一五〇〇一七〇〇間皇族會議開催セラレ後ニ諸情  
 報ヲ綜合スルニ午前中豫備會議アリ午後天皇親臨  
 ノ下ノ皇族會議ニ於テハ官殿下ヨリノ御發言ハナク陛  
 下ヨリ「レイテ」以來ノ戰蹟ニ基ク軍不信ノ御言葉ノ  
 後和平ノ御決意鞏キ由述ヘラレタノムト宣セラレシ  
 由ニ承ハル  
 因ニ近來三笠官殿下ノ御言動ノ和平的ニテ且陸  
 軍ノ驕慢ヲ反者スヘシトノ過激ナル御言動同期生等

東京・丸山納

0940

ニ魂レ我等憂慮ノ念深シ

八大臣夜三笠官邸へ伺候

九竹下中佐夜竹田官邸へ伺候殿下皇族會議内

容ニ就テハ觸ルルヲ避ケラル

陸

軍

3-12

0941